

経営比較分析表（平成30年度決算）

栃木県 野木町

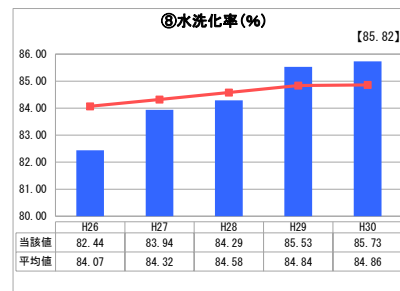
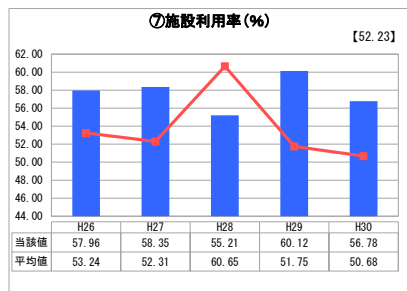
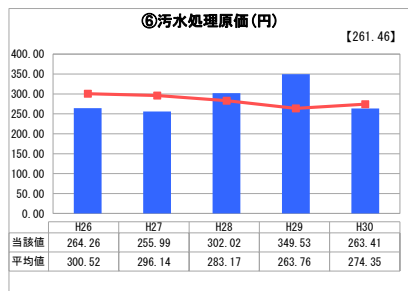
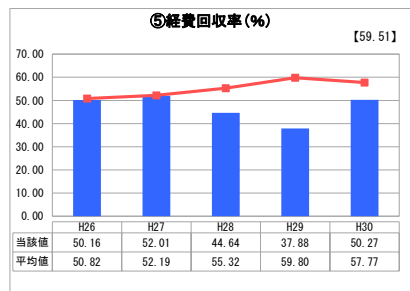
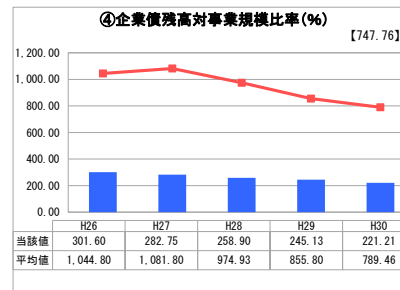
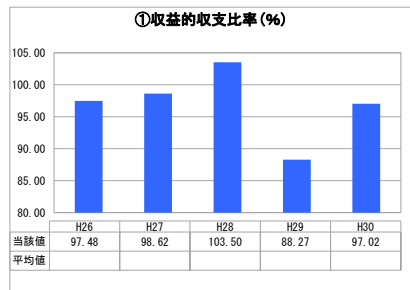
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	4.38	83.84	2,478

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
25,633	30.26	847.09
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
1,121	0.46	2,436.96

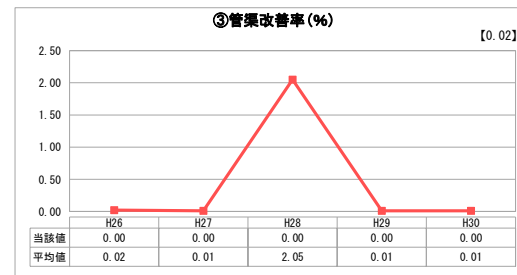
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率⑤経費回収率
経費回収率をみると、類似団体と大きな差はないものの、平成28年度より平均を少し下回り、例年100%を下回っている。このことから汚水処理にかかる費用は一般会計からの繰入金等に大きく依存している状況である。収益的比率については、平成28年度を除き100%を下回っており、料金収入や一般会計からの繰入金等でも、費用を賄いきれない状況にあるため、費用削減等の経営改善に向けた取り組みについて検討していく必要がある。

⑧水洗化率
水洗化率については、平成30年度は平成27年度より1.79ポイント上昇し、平成29・30年度と平均を上回ってきているが、引き続き接続率向上のための取り組みをしていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

野木町の農業集落排水事業は2地区で事業を行っており、佐川野地区では平成11年、川西地区では平成17年から供用を開始している。現在管渠の不備は確認されていないが、処理場やポンプ場では修繕箇所が多々見受けられる状況である。令和2年度最適化整備構想策定に向け、令和元年度機能診断を実施し、老朽化に向けた計画的な対策を図っていく。

全体総括

経営の健全性・即効性では、収益的収支比率や経費回収率に課題がみられた。本事業はすでに整備工事が完了し、ここ数年少し伸びはみられたが、約2割の方が未接続の状況である。接続率を向上させることにより、若干の使用料の増収は見込めるものの、汚水処理にかかる費用をすべて賄うことは難しい。施設の老朽化に伴う維持管理費、管渠更新等の費用増大も懸念されるが、最適化整備構想策定により有効で適切な処理方法を検討するとともに、改修・更新に計画的に取り組んでいく。令和2年度より公営企業会計へ移行することで、使用料見直し等の実施も視野に入れた経営改善を図っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。